

髪のパサつき(毛髪ダメージ)対策「キューティクルにダメージを与えない」

髪のパサつき(毛髪ダメージ)対策のポイントは、キューティクルにダメージを与えないこと。森海混は、従来の一時的になめらかさやうるおいを与えるトリートメントやヘアオイルとは違い、キューティクルにダメージを与えないことで、少しでもパサつかないようにサポートするのが特徴です。キューティクルは、一度ダメージを受けると元には戻らないため、いかにダメージを与えないかがポイントです。

●パサつきの要因「キューティクルダメージ」

キューティクルは、髪表面を覆うタンパク質で、「髪のツヤや手触り、硬さを決定する」といわれています。ツヤ・なめらかさのある髪の毛は、キューティクル表面が皮脂や18-MEA(脂質)で覆われ、またCMC(脂質)によってキューティクル同士が接着しています。ところが、パサつきが気になる方の髪の毛では、主にシャンプーやトリートメントなどの使用(配合の合成界面活性剤やアルコール)によって脂質が流出します。すると、キューティクルが開いたり・剥がれたりすることで、パサつきが起こります。キューティクルは、一度剥がれてしまうと元に戻りません。また、水分やアルカリ剤に触れてキューティクルが開いても、通常しばらくすると閉じますが、継続使用によってタンパク変性^{※1}が起きると、閉じなくなりパサつき悪化につながります。

※1 タンパク質が固くなってしまふこと。キューティクル(ケラチン)が硬くなると、閉じなくなり、開いたままとなる。

●キューティクルダメージの原因

- ・シャンプー、トリートメント、リンス、コンディショナー、ヘアオイル(合成界面活性剤・アルコール)
- ・シャンプー時、頭皮をゴシゴシする
- ・過度のブラッシング
- ・ドライヤー(特に80℃以上)のあてすぎ
- ・カラー、パーマ
- ・紫外線
- ・プール etc

●従来のパサつきケア「一時的になめらかさやうるおいを保つ」

シャンプー後、トリートメント・ヘアオイル・コンディショナーなどで、不足している水分・保湿剤・油分(シリコン含む)などを補給し、髪の毛をコーティングします。使ったときは、なめらかさやツヤ、うるおいのある髪の毛になる一方、ほとんどの商品には合成界面活性剤やアルコールが配合されています。継続使用はパサつきの悪化だけでなく、ハリ・コシ不足、うねり・広がり、切れ毛・枝毛につながる原因となります。

●森海混「キューティクルにダメージを与えない」

合成界面活性剤・アルコール不使用で、脂質を流出させず、キューティクルにダメージを与えないのが特長です。合成界面活性剤・アルコール不使用ですが、水と油(リノール酸)がなじんだ弱酸性の膜が、傷んだ髪の毛の表面を覆います。含有する油分は微量のため、使用感に物足りなさを感じる場合もありますが、森海混ケアで重視するのは、あくまで髪本来のツヤやなめらかさです。クシ・指通しの良さが持続する髪をサポートします。

※森海混「頭皮にもスプレー」

頭皮にスプレーすることで、キューティクルが備わった髪の毛が育つようサポートします。シャンプー後は、髪の毛だけでなく、頭皮を保護するために必要な脂質(皮脂・セラミド)も流出しています。この状態が続くと、空気の乾燥、紫外線、菌増殖、シャンプーなど、様々な刺激の影響によって、髪を作る細胞(毛母細胞)がダメージを受けます。すると、キューティクルが充分備わらない髪の毛の産生につながる場合もあるため、頭皮ダメージを修復することで、少しでも毛母細胞がダメージを受けにくい環境を整えます。含有するリノール酸が、セラミド(特に重要なタイプ1のセラミド)を補強し、頭皮ダメージを修復します。合成界面活性剤・アルコール不使用で、頭皮にダメージを与えません。

※よりキューティクルにダメージを与えないために「お湯洗髪」のすすめ

多くの方が、シャンプー+トリートメント・コンディショナーなどのケアで、ダブルでダメージを与えています。皮脂・汗汚れの8割はお湯だけでも落とせるため(残り2割はキューティクルを保護するために必要)、少しでもキューティクルにダメージを与えないためには、お湯洗髪の取入れも重要です。すぐに取り入れるのが難しい場合は、シャンプーの使用量・回数を減らすことから始めます。シャンプーは、「何をを使うか」よりも「どれだけ減らすか」が重要です。アルガンオイル・椿油などの100%オイルや整髪剤使用時は、シャンプーが必要です。

